

小玉りんご輸出好調

～アニメ風キャラのりんご箱人気～

当JAではりんごの輸出に力を入れています。アニメ風キャラの段ボール箱を使用した小玉りんごも好調で、輸出全体で平成29年と30年は年間30万箱（1箱10*_g）を超えています。令和元年産は、輸出会社からの要望で全ての輸出品種に同段ボール箱を使用し、出荷数量の増大を目指します。

当JAは29年からアニメ風キャラの段ボール箱で、アジアを中心に輸出を開始。小玉りんごを段ボール箱いっぱい詰めることで資材費を抑えられ、青森県産の高品質なりんごを購入しやすい価格帯で提供することができ、中間層消費者の人気を得ました。



アニメ風キャラの段ボール箱



小玉の「王林」を段ボール箱に詰める作業員

販売担当者は「富裕層消費者向けの大玉だけの輸出だったが、一般消費者向けのりんごもあることを認知してほしい。アニメ風キャラ箱を使用することで日本産であることが分かりやすく、品質も良いため人気が高い。今後も生産者の所得向上に向けた取り組みに努めたい」と話しました。今年産は「きおう」や「トキ」などの早生・中生種の輸出が行われ、晩生種は11月下旬から行われています。

適正施肥について個別相談

～肥料なんでも相談会～

黒石基幹グリーンセンターは12月3日から5日の3日間、黒石地区の6カ所で「肥料なんでも相談会」を開きました。同相談会は、生産者一人一人から施肥に関する相談を受け、適正施肥を推進することを目的としています。相談会には、3日間で約100人の生産者が訪れ、JAの営農指導員や購買担当職員と令和2年の施肥などについて、相談しました。

生産者から肥料の相談を受けた同センターの佐藤清昭調査役は「生産者から今年の農産物の生育状況と使用した肥料について丁寧に話を聞くことで、一人一人に合った次年度の肥料提案をすることができた。相談会は今後も続けていきたい」と話しました。

JAでは生産者へ、品質向上や収穫量増加のためにもJAに相談し、適正施肥を行うよう呼び掛けています。



施肥について相談する生産者（左）

共同乾燥調製施設「つがるロマン」から「まっしぐら」へ

～各地区でまっしぐらの説明会～

当JAは、米生産者の所得向上のため、令和2年産米からの共同乾燥調製施設への荷受品種を「まっしぐら」と「青天の霹靂」の2品種と決定しました。現行の「つがるロマン」と比べ、10*_g当たり1割以上の所得向上を目指します。

令和元年産米の実需者からの「つがるロマン」の需要量は約30万俵減少、「まっしぐら」は7万5000俵増加、「青天の霹靂」は2万7000俵増加することから、所得向上のためには品種構成の見直しが必要となりました。

「つがるロマン」に比べ、「まっしぐら」は収穫量が約1.5俵増加、「青天の霹靂」は単価が約3割増加することで10*_g当たり1割以上の所得向上を目指します。

12月上旬、JA管内各地区で生産者へ「まっしぐら」の栽培要点や施肥設計などを説明しました。



説明を聞く生産者